

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	平成13年4月1日
法人名	医療法人 ゆりの会		
事業所名	グループホームゆり苑		
所在地	(〒221-0802) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員が同じ時間を過ごし、私達職員はお手伝いさせて頂いているという気持ちを持ち、入居者一人一人の思いを尊重し、その方らしい時間を過ごせるよう支援致します。施設内だけではなく、外出や外食などを通し色々な方々と触れ合っています。また、高齢なりに心や身体に不安を抱えていることを理解し、職員全員が認識することで安心した生活を営んで頂ければと思っています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年3月22日	評価機関 評価決定日	平成29年4月27日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇理念に基づく利用者本位のケアの実践 ・理念「自由・自己決定・自立」の実践に向け、「押し付けない・どうしたいのか利用者が決める・出来ることはしてもらう」を支援の基本として掲げ、利用者本位のケアに当たっている。</p> <p>◇管理者・職員間の情報共有による統一した支援 ・管理者は、意見を自由に交換し常に笑顔のある「働きやすい職場」を目指しており、職員は管理者との強い信頼関係のもと、全員で利用者の情報を共有し統一した支援を行っている。</p> <p>◇地域住民との活発な交流 ・事業所は商店街に立地しており、職員は日々の生活用品や食材を、利用者と一緒に商店街で購入している。利用者は散歩や買い物で顔なじみになった地域の人たちと、挨拶やことばを交わし交流している。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>・介護タクシーを利用して、イルミネーションを見に「みなとみらい」へ、夜桜見物に「岸根公園」へ出かけ、夜の外出を楽しみ気分転換を図っている。</p> <p>・事業所の屋上では、秋は秋刀魚焼きや芋煮会、夏はヨーヨーや焼きそばなどの屋台を出す夏祭りを行い、家族も参加して楽しんでいる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆり苑
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が地域に関心を持ち入居者に出来事などを伝え共有し、催し物には参加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は理念に基づき、利用者が自由に自分の意志と能力を生活に活かせるように支援している。</li> <li>・職員は、理念の実現に向け月1回のミーティングと研修で、利用者の情報を共有し、統一したケアの実践につなげている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物、催し物、祭礼などは職員が同行し地域商店街との交流をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入しており、地域の納涼祭に参加し商店街で買い物をする、会費の集金役を引き受けるなど地域の一員として交流している。</li> <li>・近隣の保育園児が訪れ歌や踊りの披露や、大学生の研修を受け入れるなどの交流もある。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	口コミや情報誌を見られた方からの介護相談が定常化しています。管理者が中心となり相談に訪れた方へ介護支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し苑での行事報告、入居者の入居状況、感染症対策、避難訓練などの報告をしている。又、出席者の方からのご意見があった場合は参考にさせて頂きサービスの向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を2か月ごとに開催し、意見を運営に活かしている。</li> <li>・参加者から、利用者や買い物や散歩に同行する職員が、どこの誰か分からないとの意見があり、事業所のロゴを刺繍したポロシャツとエプロンを、ユニホームとして採用した。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の受給者が多く入居している為、区役所の生活支援課の方と連絡を密に取り実績を伝え協力関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区のケースワーカーとは、利用者の相談や近況報告で連絡を取り、支援に反映している。</li> <li>・管理者は、神奈川ブロックのグループホーム連絡会の役員を引受け、研修や徘徊ネットワークに参加している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性がない限り玄関の施錠はしていません。身体拘束をする必要がないよう日々努力しています。	・利用契約書に、身体拘束の方針が明記され、職員は研修や勉強会で身体拘束の弊害を学び、身体拘束をしないケアを実践している。 ・管理者は、職員の不適切な対応には、朝・夕の申し送りや5分間ミーティングで注意、指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束について勉強会を開き指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解出来ていないところは研修などに参加し地域支援サービスなどと協力している。		
		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者のご家族と契約時に読み合わせし不明な点は十分に説明をし理解納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族のご意見やご要望は管理者が中心となり職員と話し合い運営に反映させている。	・家族の意見や要望は、面会時や電話連絡時に聴いている。 ・散歩の機会を増やして欲しいとの要望に、天候の良い日は体調に合わせて外出を支援し、毎日散歩する利用者も2名いる。 ・契約時に、事業所外にも苦情・相談の窓口がある旨説明している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問や問題点があれば職員と話し合い意見交換し良い提案は運営に反映させている。	・職員からの意見や提案は、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、昼休みの5分間ミーティングや個人面談、日常業務を通じて聞き出し、改善に活かしている。 ・職員の意見で掃除用具を見直し、掃除方法の効率化に反映した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度理事長会を開き管理者を通して報告し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に必要な研修を受講させている。ステップアップに繋がる研修は積極的に参加できるように情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	出来る限り集まり等に参加し名刺交換を通して情報交換などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や職員から聞いた事を本人と直接話し困っている事や不安に思っている事を聞き一緒に考え本人にとって最善の方法を考える様務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に入居する事でのご家族の不安や問題点をお聞きし入居者様ご本人にとって最善の方法をご家族と一緒に考える事で関係作りを深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族がその時必要としているサービスを考えできるだけ限り対応出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は生活を共にするもの者としてお互いに向き合う様務めている。又、職員は自分から入居者に歩みよる事で信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しても同様に情報を共有しあいより良い信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り入居者を馴染みの場所に連れて行き入居前同様の関係を壊さないよう支援している。	・利用者が、入居前の友人を訪問するときや、障がいのある利用者が、これまで通っていた作業所に通うときは、職員が送迎を支援して、継続的に交流できるように、働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを利用し同じ話題を持ち職員、入居者に限らず気軽に話せる様な環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移っても日知用に応じてご本人やご家族共、連絡を取れる様にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者や職員の言葉に耳を傾け日常生活から何を思っているのか毎日確認しながら生活して頂いている。	・自分の思いや意向を表現できる利用者が多いが、職員は利用者2人になる外出や入浴、通院介助の折に、本人の希望や意向を聞きだすように努めている。 ・職員は把握した利用者の希望や意向を反映した支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者が以前どのような生活をしてきたのか近親者から情報を頂き入居者の生活に生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の配置を厚くし入居者の瀬克状況について身体面、精神面の両面から把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、主治医、訪問看護師、訪問歯科医など色々な方から意見や助言、指導を頂き本人と話し合いを下に介護計画を作成しています。	・計画作成担当者が本人と話し合っ て得た情報を、ミーティングで検討 して、介護計画に反映している。 ・計画は3か月毎に見直している。毎 月のモニタリングで、現状に即して いるか職員間で話し合い、計画に反 映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1度のミーティングや必要に応 じて会議を開き職員同士意見を出し 合いながら情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前より事業所の多機能化を目指し ているが今だ実現化に至っておらず 時間を要するのが現状である。職員 も充実してきてはいるが実現化には まだ時間がかかりそうである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、自治会、商店、保育園 など地域の方々に支援を頂きながら 楽しめる様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切に以前 より御世話になっている医療機関と 情報を共有しながら適切な医療うけ られる様支援している。	・入居時に家族の了解を得て、全員 が同一法人の医院に切替えている。 ・内科と皮膚科、歯科以外の受診 は、職員の付き添い、適切な医療が 受けられるように支援している。 受診結果は、日報・申し送りに記録 して、職員間で共有している。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常生活の中で気づいた事や感じた事を記録し訪問看護師や医師に伝え相談しその時の状況にあった診察を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先医師、弊法人医師、看護師、職員が一体となり情報を共有し早期退院出来る様支援し再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、ご家族と話し合い希望に沿って重度化した時の終末期の対応が出来る様取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に、現状事業所内での看取りが困難な旨家族に説明している。</li> <li>・今後の終末期の対応に備え、管理者と職員2名が外部で看取りの研修を受け、また職員を対象に、訪問看護師によるターミナルケアの研修を予定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画しているターミナルケアの研修を実施することが望まれます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が責任感と意識を高める為避難訓練に加えAEDの使用方法、通報や連絡の取り方など急変時にも対応出来るに定期的訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川県消防署や地元消防団の儀尽力を頂き地域との連携協力体制を築く事が出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の消防団の防災協力を得て、年2回避難訓練を実施している。</li> <li>・管理者は職員に「火の元」の注意と避難経路の確保を指示している。</li> <li>・備蓄品には、賞味期限切れの物もあり品目・数量なども含め補充を検討中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄品リストを作成し、食料品の賞味期限の管理に加え、災害に備え懐中電灯や防寒具など日常生活に必要な物品の備蓄が望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人一人の生活状況を把握し人格を尊重しプライバシーを損なわない様に注意しながら対応する様に心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は利用者の行動や意向を受け入れ、利用者のペースで暮らせる様に、人格やプライバシーに配慮したケアに努めている。</li> <li>・個人情報の記録類は、管理者室の鍵付きの書庫にて管理している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者は生活をしていく中で自分自身の希望や思いを伝えられるような環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを崩さない様に注意し職員の仕事を優先するのではなく入居者の希望を優先する様職員に意識付けする様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身が身に着けた物は否定せず褒める事で意欲が出る様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の好みを把握し高齢者向きの食事に捉われず安全で豊かな食事を提供している。。又、支度時や片付けなど入居者にも手伝いをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は毎日購入し、職員が家庭的な食事を提供している。</li> <li>・職員は、利用者と一緒に談笑しながら食事をしている。</li> <li>・利用者はできる範囲で、調理準備や後片付けなどを手伝っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事の摂取量や水分の摂取量を毎日記録し必要に応じて個別に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。週に1度訪問歯科の先生よりアドバイスを頂き必要に応じて職員がチェックし介助する様にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄への支援、配慮は出来ている。排泄への自立支援は重要なポイントとして支援を行っている。	・排泄記録を基に声かけ誘導している。日中は全員が布パンツを使用し自立排泄であり、入所時から排泄レベルは安定した状況にある。 ・夜間は、睡眠を優先してリハビリパンツを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い便通に繋がるような食事を提供出来る様に心がけ水分の補給や適度な運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者が楽しめる様支援はしているが曜日や時間を限定してしまっているのが現状である。又、時には入浴剤を使い色や香りを楽しんで頂いてます。	・週2回午前中、利用者は職員と会話を楽しみ入浴をしている。季節によりユズ湯なども実施している。 ・入浴に消極的な利用者には、入浴日の変更や主治医が「血行が良くなりますよ」と言っていると誘導し、効果を上げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は決まっているが他の入居者の迷惑を掛けない様気遣いの下に自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服薬している薬を把握し症状に変化があった場合は主治医に相談し再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人で自分の生活を組み立てる事が出来ない方には役割を持って頂きメリハリのある生活を送って頂くように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出についてはできる限りの支援を行っている。第一に安全を考え外出を希望される方には家族や職員を介助者として同行する様支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日には事業所前の商店街や人通りの少ない住宅街などに、出かけている。障がい者用の作業所に通っている利用者もいる。</li> <li>・岸根公園の花見や新横浜駅にある回転ずしなどに、介護タクシーを利用しての遠出も楽しんでいる。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分自身で管理出来る方のみ所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればほとんどの場合支援出来ている。自室に電話機を希望されている方には自立度に応じて対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境については特に工夫はしていませんが入居者、職員が共に居心地の良い空間になる様心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングは、壁や天井に飾り付けがあり、明るく居心地の良い空間になっている。畳のスペースには、ソファベッドが置かれ、利用者の睡眠などに使われている。</li> <li>・屋上は、利用者も手伝う洗濯物干しや各種行事に活用している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用した建物である為一人一人になれる場所が自室しかなくお互いの部屋を行き来して工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い出来る限り本人の好みにあった居室作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、障子、防災カーテンが備えてある。</li> <li>・壁には、家族の写真を壁に貼り、テレビや収納ボックスなどを置いて好みの居室作りをしている。固定電話を設置している利用者もいる。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い勝手の悪いハード面を有する施設の為入居者の安全第一に考え声かけや見守りをし安心して生活が送れるよう支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームゆり苑

作成日 平成29年5月2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	・入居時より本人や家族と話し合い、本人や家族の意思に副えるように、主治医、訪問看護師、スタッフとともにチームで支援できるように取り組む。	・ターミナルケアに対する理解を深める。 ・ターミナルケアに関する研修への参加や講習会の開催。	6か月
2	13	災害対策	・避難訓練だけでなく、初期消火の仕方や通報の仕方など、スタッフ全員ができるような体制を取る。 ・備蓄品の確保	・地域の消防団や商店街の方たちと協力体制を強化し、入居者の情報が分かるようなリストを作る。 ・備蓄品のリストを作り、計画を立てながら備蓄品の確保をする。	6か月
3					
4					
5					